

9月4日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版

「神の栄光のため」ヨハネ11:1～10

今回の箇所最も大切な言葉は4節です。死は死で終わらない…大変に慰めを与えてくれる言葉です。私たちはこの地上において「必ず死ぬ」わけですが、それが「死んで無意味に終わるのではなくて」何につながるかという、4節では「神の栄光」「神の子の栄光」につながるのだと示しています。これはただ「ラザロを癒すことによって、イエスが栄光の神の子であることが証明される」ということではありません。

この箇所以外でイエスは「栄光を受ける時が来た」などと話をなさっていますが、それらは「十字架にかかれる時」を指して言われています。すべての人間を愛するゆえに、また救い出したいゆえにかかれた「イエスの十字架」、そしてこれに続く「復活」が、最も神と神の子の栄光を表すものであることは間違いありません。病気を癒すなど「人間にはできない奇跡をおこされた時」神の栄光が表されるというよりも、「病気を通して、イエスが十字架と復活の道を与えて下さることが証されて」そのことで、神の栄光は表れるのです。

ラザロに限らず、すべての人の死、私たちに身近なそれぞれの人の死を「イエスの十字架・復活」を通して理解する時、そこに「イエスがもたらして下さった永遠の命」の希望が与えられるのです。ラザロは「特別な神の子の業」によって「生き返り」ます。しかし、聖書には出ませんが、そのラザロもやがてこの地上での死を迎えたはずで、私たちもいつか必ずこの地上の命を終える日が来ます。それは悲しいですし、つらいです。しかしながら！「死に至る病を通して、イエスが十字架と復活の道を与えて下さる」ことが証されます。ただの無意味な死ではなくて、そのことを通して神の栄光は表れるのです。(終)